

カキ陸上養殖 公庫出資

久米島 1.9億円 海外展開目指す

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は17日、久米島町で世界初のカキの完全陸上養殖に取り組む「ジーオー



出資会見を行った（左から）沖縄振興開発金融公庫新事業育成出資室の砂川室長、ジーオー・ファームの鷺足社長、ゼネラル・オイスターの吉田CEO＝同公庫

・ファーム」（鷺足恭子社長）に1億9千万円を出資したと発表した。同社は11月中旬以降に着工する養殖施設の建設などに充て、2018年3月までにカキを試験出荷。20年には年間300万個を出荷し、7億円以上の売り上げが目標。沖縄を拠点にアジアなど海外展開も目指す。

同社はゼネラル・オイスター（旧社名・ヒューマンウェーブ、吉田瑠則代表取締役CEO）のグループ会社。久米島沖で取水される海洋深層水を使い、ウイルスが含まれない「あたらないカキ」の生産・出荷を目指している。

海洋深層水は洗浄性が高く、温度も一定で管理しやすい。栄養分も豊富で餌となるプランクトンの増殖にも適している。温度や餌の与え方を工夫すれば、海上養殖の出荷期間（2年）を1年以下に短縮できるといふ。

来月着工するのは受精施設「ハッチェリー」、3ヶ月3ヶ月の幼貝に育てる「ナーサリ」。その後、出荷可能な3ヶ月以上の成貝に育てる「グロリアウト」を建設。アジアを中心とする海外出荷も検討し、段階的に規模を拡充する。

出資は9月29日付。自己増資を含め、資本は4億円（資

本金2億500万円、資本準備金1億9500万円）となった。同公庫新事業育成出資室の砂川則夫室長、鷺足社長、吉田CEOが17日、記者会見。吉田CEOは「海洋深層水や気象条件など久米島の恵まれた環境を生かし、世界で一番安全なカキを作りたい」と抱負を述べた。

ジーオー・ファーム 生食も安全

世界初 カキ陸上養殖

全国でオイスター（カキ）
バーを経営するゼネラル・オ
イスター（東京、吉田秀則代
表取締役CEO）の子会社ジ
ーオー・ファーム（久米島
町、鷲足恭子社長）が久米島
町の海洋深層水を使って、カ
キの陸上養殖を始める。卵の
受精から成員に生育するまで
一貫して陸上で行うのは世界
初。拠点となる施設を11月に
も建設予定で、早ければ20
17年度内に久米島産カキと
して全国に出荷する。雑菌が
いない海洋深層水を用いるこ
とで、ウイルスフリーの食あ
たりしない「安心、安全なカ
キ」として世界に売り込む。
カキの陸上養殖は、卵を受
精させる施設（ハッチェリ
ー）と幼貝を3ヶ月程度まで生
育する施設（ナーサリー）、
3ヶ月程度まで大きくなった幼

久米島に海洋深層水施設

貝を成貝まで育成する施設
（グローアウト）の三つの施
設で一体的に行う。施設は当
面は1300平方メートル規模で、
増産体制が整い次第、拡張さ
せ、将来的には3700平方
メートル規模にする。

海水中の植物プランクトン
を餌にするカキは、1時間に
20リットルの海水を体内で循環させ
るため、海で養殖した場合、
海水に含まれる菌やウイルス
が体内に蓄積し、生で食べた
場合に食あたりすることがあ
る。久米島町は海洋深層水の
取水量が全国一で、カキの生
育に必要な大量の海水を確保
できるほか、亜熱帯気候によ
り、プランクトンの光合成に
適した日照量があるなどの利
点がある。

海洋深層水は表層水に比べ
温度調節が容易で、通常2年
程度かかる生育期間を大幅に
短縮することができる。ジ
ーオー・ファームは「1年以内」
（吉田CEO）の生育期間を目
標に据えており、20年には年
300万個の出荷を目指す。

ジーオー・ファームは9月
末、沖縄振興開発金融公庫と
親会社から合わせて3億9千
万円の出資を受けた。



ジーオー・ファームの研究施設で生育された養殖カキ。久米島町手根